

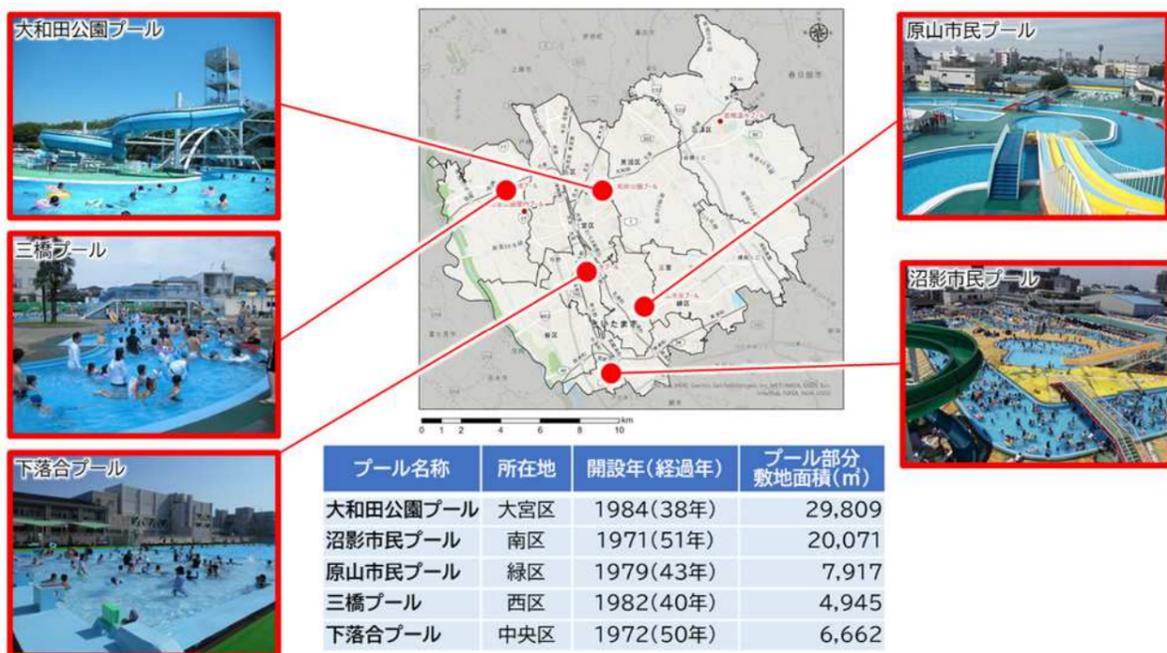
# さいたま市レジャープールのあり方方針 概要版

## 1. 背景と目的

- 海なし県に位置する本市では、娯楽・レジャー目的で夏季のみ営業しているレジャープールが5施設あり、夏の思い出づくりに欠かせない施設となっている。
- いずれも、1970年代から1980年代に整備し、現在に至っているものであり、必ずしも**現在の本市における全体最適を考慮したものとはいえない**。
- **沼影市民プール**は義務教育学校の建設に伴って令和5年度末に**廃止予定**。
- **下落合プール**は中央区役所周辺の公共施設再編に合わせて、**屋内プールのみが再整備**される予定。

将来的な設置意義を踏まえ、本市の**レジャープール**について、**中長期的な視点から今後のあり方を示す**必要がある。

### 本市が保有するレジャープールの位置



## 2. 周辺自治体の動向

### 周辺自治体の開設年度別の施設数の推移

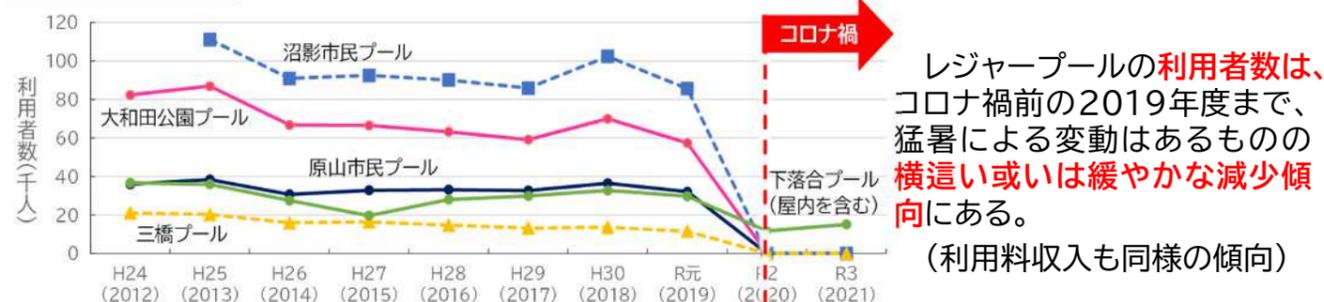
- 屋外のレジャープールについて、県内自治体では1970年代に、政令指定都市は1960～1970年代に開設時期が集中している
- **2000年代以降に開設したレジャープールは1施設のみ**

### 過去10年で廃止となったレジャープール(埼玉県内)

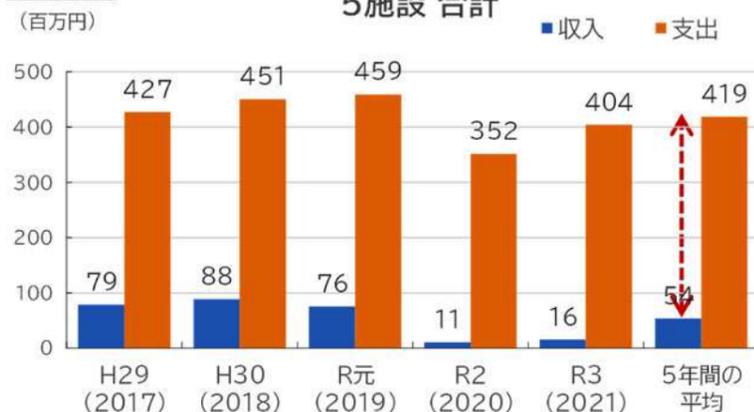
- 過去10年、埼玉県内では**10施設のレジャープールが廃止**している。
- 全施設が廃止理由の一つに、「**老朽化の進行**」をあげている。
- 廃止年度は、10施設のうち**7施設が2020年度以降に集中**している。

## 3. 現状

### 利用者数の推移

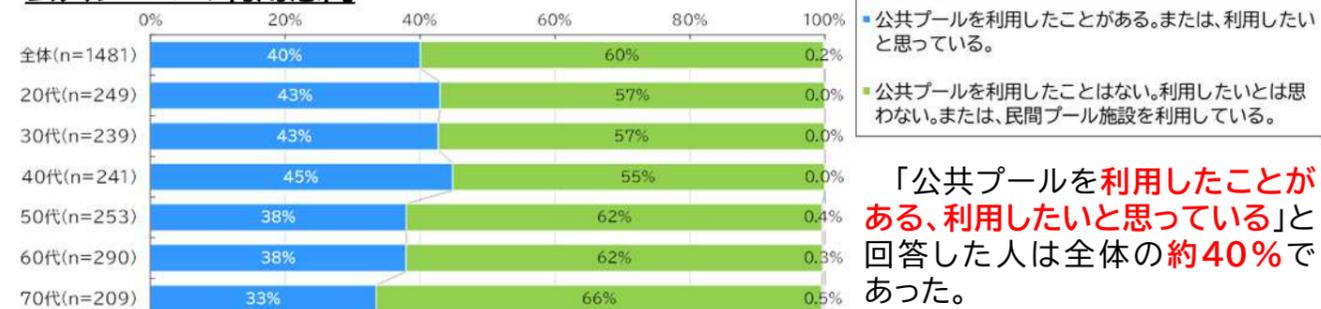


### 収支状況

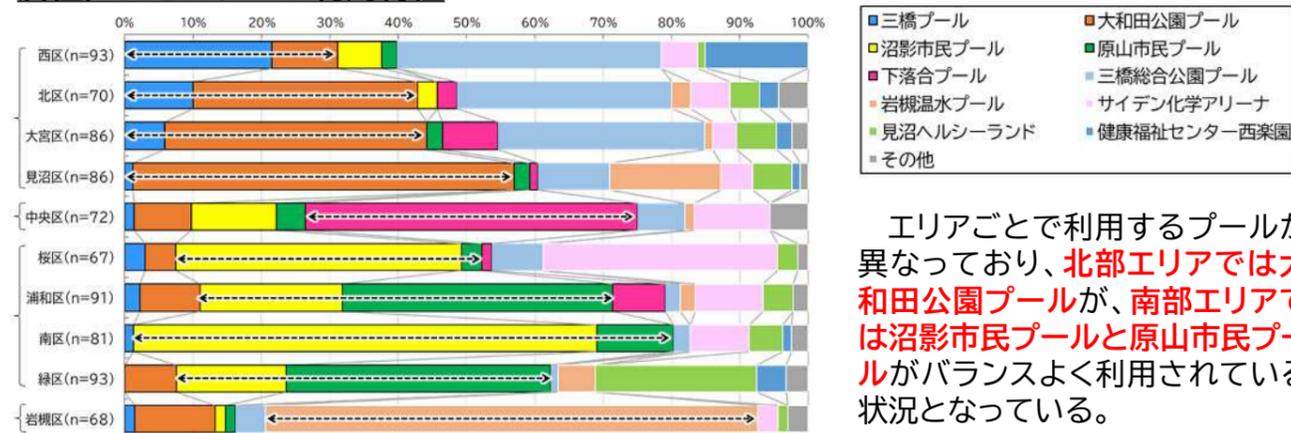


レジャープール5施設の合計は、5年間の平均で、**収支は年間約3億6,500万円の支出超過(マイナス)**となっている。

### 公共プールの利用意向



### 居住区ごとのプール利用特性



## 4. 課題

- 利用者数、利用料収入が微減傾向
- 5施設で年間約3億6,500万円の支出超過
- 5施設は1970年代～80年代に整備しており、施設の老朽化が深刻
- 周辺自治体はレジャープールを廃止する傾向

### 課題

- 中長期的な視点から、**財政負担の軽減を図る**必要がある。
- 今後利用者が減少することを見据え、**集約・再編**などにより、**地域バランスを考慮した配置の検討**が必要である。

## 5. 課題解決の方向性

- 歳入を増やすため、あくまで試算として、新設・更新の際に**受益者負担割合50%での値上げで検討**する。
- 歳出の削減のため**集約再編**を行う。
- アクセス数と利用者数を踏まえた**地域バランスを検証した場合、北部エリアでは、大和田公園プールで広域利用が可能**である一方、**南部エリアでは、広域利用を今後想定する場合、沼影市民プールの代替施設を新設あるいは原山市民プールのリニューアルが必要**となる。

## 6. 集約再編パターンの検証

集約・再編パターン	【パターン1】 大和田公園プール 沼影市民プール代替プール新設 公園整備(原山・三橋)	【パターン2】 大和田公園プール 原山市民プールのリニューアル 公園整備(三橋)	【パターン3】 保有量最小化 (大和田公園プールのみ)
位置図	5施設を2施設に集約 	5施設を2施設に集約 	5施設を1施設に集約 
大和田公園プール	・公民連携によるリニューアル、利用料金の増額		
沼影市民プール(屋外)	・公民連携により代替地に新設 ・利用料金の増額	×R6年度以降に解体(施設廃止)	
原山市民プール	・プールを解体し、公民連携により親水機能を有した公園を整備	・公民連携によるリニューアル ・利用料金の増額	×解体(施設廃止)
三橋プール	・プールを解体し、公民連携により親水機能を有した公園を整備		×解体(施設廃止)
下落合プール(屋外)	×中央区役所周辺の再編に合わせ、解体(施設廃止)		
総合評価	○	△	×
地域バランス	広域利用が可能な2施設がバランスよく配置 需要をカバーできる	2施設がバランスよく配置 需要をカバーするには相当の工夫が必要	北部エリアに偏る 南部の需要をカバーできない
2050年度までの支出超過額(年間の支出超過額)	△ 10,686百万円 (年間約3億8,200万円)	○ 5,031百万円 (年間約1億8,000万円)	○ 4,568百万円 (年間約1億6,300万円)

※公民連携事業による民間提案の状況次第で、支出の内訳および収入は変動する可能性がある。

## 7. レジャープールのあり方方針

### 基本的な考え方

- ① レジャープールは、夏季における市民の娯楽の一つとして重要な役割を果たしており、それは今後も同様である。そのため、**今後もレジャープールを維持していく**。
- ② 今後、人口減少や少子化により**利用者数が減少**することが想定されるため、**財政負担の軽減**に向け、**施設の集約・再編**を行う。
- ③ レジャープールを新設・リニューアルする際には、**Park-PFI等の公民連携手法の積極的な導入**を検討する。
- ④ 併せて、利用料収入を確保するため、**施設の魅力度が向上する場合は、民間事業者の意向を踏まえ、利用料金の改定を検討**する(民間事業者の意向次第では、レジャープールの屋内化も検討する)。

### 集約・再編の方向性

- ① 地域バランスと財政負担軽減を考慮し、**北部エリアと南部エリアにそれぞれ1施設とし、5施設から2施設に段階的に集約・再編**を目指す。
- ② 基本的に、集約する2施設は、広域からの市民利用が期待できる**総合的なレジャープール**を目指す。
- ③ 廃止となるプールについては、親水機能を有した**身近な公園などに整備**し、引き続き、公共空間としてサービスを提供する。

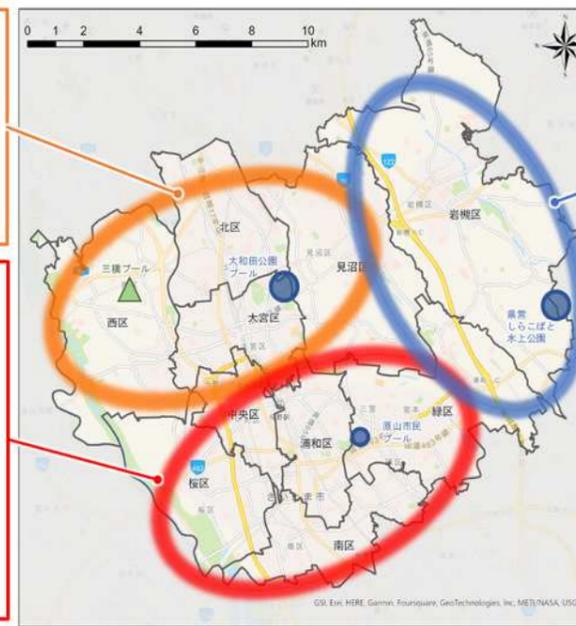
### 将来イメージ

#### 北部エリア

- ・レジャープールは**1施設に集約**する。
- ・大和田公園プールの更新により、継続利用する。
- ・三橋プールは、親水機能を有した**身近な公園などに再整備**する。

#### 南部エリア

- ・レジャープールは**1施設に集約**する。
- ・まずは、沼影市民プールの代替の新設を優先して検討する。
- ・ただし、財政負担の軽減を踏まえ、原山市民プールのリニューアルについても併せて検討するとともに、プールにしない場合は、親水機能を有した**身近な公園などに再整備**する。



#### 東部エリア

- ・越谷市境に、**県営しらこぼと水上公園**がプールを営業。

【県営しらこぼと水上公園】  
開設:1979年6月  
面積:11.8ha(プール部分)

#### 【凡例】

- レジャープール
- ▲ 身近な公園整備

- ※ 南部エリアでは、沼影市民プールの代替地に関する検討を行う。
- ※ 新設・リニューアルする際には、Park-PFI等の公民連携手法の積極的な導入を検討する